

地元の獅子舞の継承と自治会の活性化を考える

富山県小矢部市 畑 栄幸



1. はじめに

日本には長い歴史と伝統の中で先人から守り伝えられてきた伝統芸能が数多く存在している。しかしながら、人口の減少や少子高齢化、そして娯楽の多様化や生活スタイルの変化により、担い手の高齢化や後継者不足が深刻な問題となっている。

そのような問題を抱える伝統芸能の1つが獅子舞である。獅子舞はライオンを象った獅子頭に、唐獅子文様を大きく描いた胴幕（かや）を付けて舞う民俗芸能である。

私の住む富山県は全国でも屈指の獅子舞の継承数を誇っており、現在でも県内各地に1,000件以上の獅子舞が伝えられていると言われている。富山県の獅子舞は、ほとんどが江戸末期から明治期にかけて根付いたもので、地域の繁栄や五穀豊穡を祈り、地元の人たちが担い手となり受け継がれてきた（富山県観光公式サイトより）。地域ごとにルーツや形態、見どころも様々であり、先人より各地域に受け継がれてきた獅子舞はそれぞれの地域にとっての誇りとも言える。

私自身も小学校1年生の時に地元自治会の獅子舞活動にくっとり（踊り子）として初めて参加し、小学校を卒業後、一度獅子舞活動から離れた後、社会人となった23歳からお囃子の笛役として再び獅子舞活動を続けている。また、獅子舞活動の再開をきっかけとして地区運動会や除夜の鐘撞などの自治会活動にも参加するようになり、獅子舞活動への参加が自治会活動の入り口となっていることを実感している。

しかしながら、私の地元自治会の獅子舞活動も担い手不足が大きな問題となっており、令和8年から活動の主体が変更となることが決定している。

本レポートでは今回大きな転換点を迎える筆者の地元自治会の獅子舞活動の現状を明文化し、課題とその解決策とともに、獅子舞活動を自治会の活性化に繋げる可能性について考察していく。

2. 小矢部市と獅子舞

小矢部市の獅子舞は町部における石動32町・32組の石動天神獅子舞連盟と、村部における52村・52組の獅子方の、合計84獅子方が存在している。

町部の石動天神獅子舞は、前田利家公の甥の前田利秀公が、天正17年(1589年)に津幡城から今石動城4万石を拝領して入城し、その際に領民達が近郷近在の獅子舞を集めて歓迎の舞を詣でたことが石動獅子盆(石動天神獅子舞連盟)の始まりである(小矢部市獅子舞

連合会ホームページより)。また、毎年5月末には「石動天神獅子舞祭（おやべの獅子舞祭）」にあわせて「小矢部市獅子舞大共演会」が開催されており、観光資源としての側面も有している。共演会では市内の「百足獅子」のほか、特別招待として市外からの獅子舞も参加している。この共演会は新型コロナウイルス感染症の影響等で、令和元年の開催以降、中止してきたが、令和7年に第30回記念として6年ぶりに開催された。

一方、村部の獅子舞は地域内での奉納を目的とし、地域外で披露する機会は限られている。

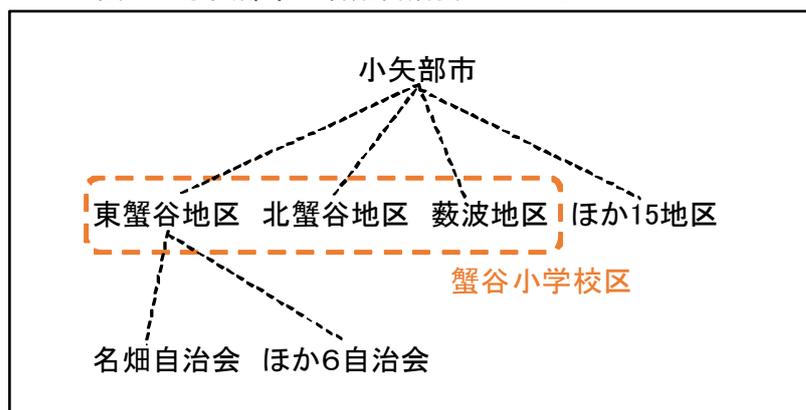
3. 名畑自治会における獅子舞活動

次に筆者が実際に所属し活動している名畑自治会とその獅子舞活動について説明する。

(1) 名畑自治会について

小矢部市は18地区に区分されており、各地区はいくつかの自治会又は町内会で構成されている。名畑自治会は東蟹谷地区を構成する7つの自治会の1つである。なお、東蟹谷地区と北蟹谷地区、そして藪波地区の3地区で蟹谷小学校区となる。

図1 小矢部市と名畑自治会について



名畑自治会は、名畑の住民が形成する地域コミュニティで、現在70弱の世帯がある。市の中心市街からは車で10分ほどの距離で、広大な農地の中に家々が孤立して点在する集落形態の散居村が広がっている。

自治会の役員体制としては区長を長とし、区長代理、会計、班長（全10班、5～8世帯で構成している）と続いており、自治会内の諸団体として青年団、女性連絡会、消防組、児童クラブ、長寿会、南部及び北部生産組会などがある。

名畑自治会で行われている主な年間行事は表1のとおりである。

名畑自治会の行事は子供が参加する行事はあまりないが、獅子舞については出演者や観客として3世代が揃う家庭が多い。これは当地域が3世代同居や敷地内同居の世帯が多いことが影響していると考えられる。

表 1 名畑自治会の年間行事一覧

時 期		行 事 名	主な関係者
1 月	上旬	年賀 歳旦祭・身祝い	自治会役員（主に 50～60 代） 自治会役員（主に 50～60 代）及び 対象の者
	下旬	初総会 消防組出初式	自治会役員（主に 50～60 代） 消防組員（主に 20～40 代）
2 月	上旬	鎮火祭	自治会役員（主に 50～60 代）
3 月	下旬	江浚い（用水路掃除）	自治会員（主に世帯主）
4 月	上旬	春季祭礼・獅子舞奉納	自治会役員・青年団・小学生 （小学生～60 代）
6 月	下旬	河川堤防草刈り	自治会員（主に世帯主）
7 月		屋内防除	自治会委員
	下旬	地藏祭	自治会役員（主に 50～60 代）
8 月	中旬	墓地清掃	自治会員（主に世帯主）
9 月	上旬	秋季祭礼・獅子舞奉納	自治会役員・青年団・小学生 （小学生～60 代）
	下旬	東蟹谷地区防災訓練	消防組員（主に 20～40 代）
10 月		東蟹谷地区住民体育大会	自治会全世代
11 月	下旬	新嘗祭	自治会役員（主に 50～60 代）
12 月	中旬	万雑総会	自治会員（主に世帯主）
	29 日～31 日	消防組夜警	消防組員（20 代～40 代）
	31 日～1 日	除夜の鐘撞（善住寺）	青年団員（20 代～40 代）

(2) 名畑の獅子舞

名畑の獅子舞は明治晩期に近隣町内により伝授されたとされている。獅子の形態は複数人で一匹の獅子を操るダイナミックな百足獅子で、胴幕の中には獅子頭を振るうものを含めて 6 人が入る。1 回の祭礼で 10 演目ほどを披露し、1 つの演目毎（演目によっては演目の途中に）に頭役が交代する。

各演目に「くっとり」と呼ばれる小学生の踊り子が獅子に対し 1 人又は 3 人で踊る。

境内での獅子舞奉納に必要な人員としては、大人が獅子役として 10 人程度、お囃子として笛が 3～4 人、太鼓が 1 人、小学生のくっとりが 5 人程度必要となる。

名畑自治会においては、小学校 1 年生から 6 年生までの男女がくつとりを務めており、現在の人数は 1 年生の女子が 2 人、2 年生の男子が 1 人、4 年生の女子が 1 人、5 年生の男子が 1 人の計 5 人である。

写真 1 獅子舞奉納の様子



かつては長男のみをくっとりとしていたが、子供が減ってきたことから平成 10 年ごろから次男以降の男の子も参加できるようになった。また、平成 17 年ごろにお囃子の太鼓役として小学生の女の子が初めて参加し、さらに、平成 25 年ごろからは女の子もくっとりとして参加できるようになった。

獅子舞の実施時期は 4 月上旬の土曜と 9 月上旬の土曜日の年 2 回で、自治会の祭礼に併せて地域内の神社で奉納を行う。コロナ禍前までは実施日を 4 月 9 日と 8 月 30 日というように日を固定していたが、コロナ禍が収束し獅子舞活動が再開した令和 5 年の秋祭りから、仕事の影響が少なく多くの者が参加しやすい土曜日に実施する形に変更となった。

また、かつては 4 月の獅子舞の際には、地域内の全ての世帯と企業を回り獅子舞を奉納していたが、平成 31 年にくっつりの人数が 4 人以下となったため、子供の負担を考慮し神社のみで奉納する形となった。

獅子舞の練習期間はそれぞれ 2 週間程で、時間は夜 8 時から 9 時までの 1 時間となる。

練習方法としては各演目を順番に最初から最後まで通しで行い、獅子役の者は熟練者の動きを後ろで見たり聞いたりし、笛役の者も演目の楽譜は存在しないため熟練者の指の動きと音を聞いて覚えていく。また、くっつりの子供達は指導役の大人から踊りの指導を受けたり、上級生の動きを見ながら覚えていく。

名畑自治会では青年団が中心となり獅子舞活動を行ってきた。青年団は獅子舞活動を主とし、それ以外にも住民運動会等行事の参加や、大晦日から正月にかけての除夜の鐘付きなどを行っていた。直近まで名畑青年団として実際に活動していたのは 20 代が 1 人、30 代が 3 人、40 代が 2 人の計 6 人であり、各行事の際には青年団 OB や地区外に転出した者にも協力してもらいながらその活動を維持していた。

青年団は地区内の 18 歳から 35 歳までの男性としていたが、団員の新規加入者の減少により、平成 25 年ごろに対象年齢を 35 歳から 42 歳までに延長した経緯がある。しかし、その後も団員の新陳代謝は進まず、自治会役員にも相談しながらも何とか活動を続けていた。そして、いよいよ次の青年団役員（団長を長とし、副団長、会計と続く）を選出できなくなったところで、その旨を自治会に伝えたところ、自治会においても青年団として今後活動していくことは困難であると判断され、今年（令和 7 年）において団を解散とし、新たに「名畑獅子舞保存会」（以下「保存会」という。）として名畑自治会全体で行事を続けていくことが決定された。

新たに獅子舞活動の主体となる保存会は「名畑地区に伝わる名畑獅子舞の保存・継承並びに後継者の育成に務めるとともに名畑地区の文化向上と威勢を高めることを目的とす

写真 2 練習の様子



る」とし、「地区の老若男女および本会活動の趣旨に賛同するものをもって構成する」としている。また、保存会にかかる経費については「補助金、寄付金、その他負担金をもって充てる」としている。

獅子舞活動の主体が青年団から保存会に変わることによる大きな違いは、獅子舞活動に関わるものが一部の世代の男性だけでなく、子供から高齢者まで自治会住民全員が関係者となることであろう。

なお、現在近隣自治会においても同様に「獅子舞保存会」として継続しているところがほとんどである。

4. 獅子舞活動主体へのアンケート結果

今後の名畑自治会の獅子舞活動に対する課題を考察するにあたり、令和 7 年 12 月に「名畑自治会における獅子舞活動について」のアンケート調査を実施した。この結果を分析しながら、課題を考える。アンケートの対象者は獅子舞活動の中心となっている当該自治会内の 28 歳から 48 歳までの男性 17 人である。

○青年団活動を開始した年齢

青年団活動を開始した年齢には、18 歳から 24 歳まで、その後 27 歳から 38 歳までの固まりがあり、前者は 12 人、後者は 5 人であった。そのきっかけは、前者は就職等を契機に、後者は Uターンや結婚等を契機と推測する。

現在の青年団には 20 代が 1 人しかおらず、これまでのように就職しても青年団活動に参加していないのが実情である。

○名畑自治会及び東蟹谷地区に関する役職の従事

次に名畑自治会及び東蟹谷地区での獅子舞活動団体以外で、現在ついている役職について尋ねたところ、結果は以下のとおりであった。

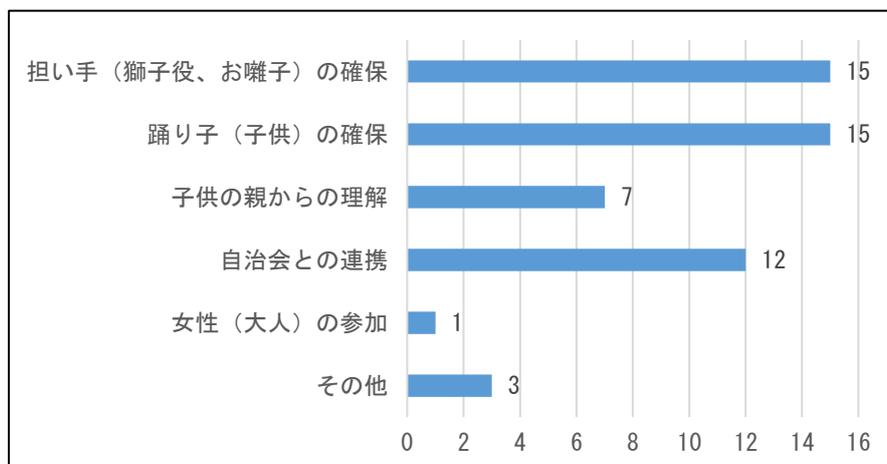
- ・名畑南部生産組合（会計） ・消防組組頭、児童クラブ ・名畑北部生産組合副会長
- ・東蟹谷地区消防団 ・名畑消防組会計 ・名畑北部生産組合会計 ・東蟹谷体育協会
- ・東蟹谷体育協会(理事長)、名畑南部生産組合(副会長)、名畑資源保全隊(書記次長)

この結果から、獅子舞活動に携わる人は、名畑自治会において役職を任せられている傾向が分かった。裏を返せば、自治会の役職を任される人が偏ってきており、高齢化と若者の減少が進んでいる当該自治会においては、1 人がいくつもの役職を何年もしなければならぬという事態が懸念される。

○獅子舞活動を今後継続していくために必要なこと

次に獅子舞活動を今後継続していくために必要なことを尋ねた。

図 2 獅子舞活動を今後継続していくために必要なこと（複数回答可）



アンケート調査結果より

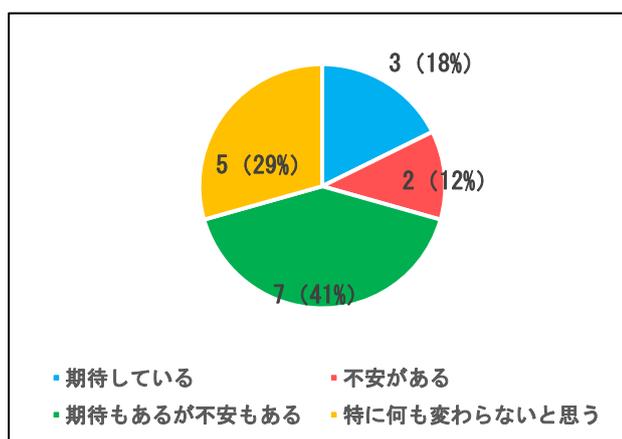
「担い手（獅子役、お囃子）の確保」及び「踊り子（子供）の確保」が 17 人中 15 人、次いで「自治会との連携」、「子供の親からの理解」と続いている。

この結果から、やはり人員の確保が最大の課題であり、また、限られた世代だけでの運営には限界を感じていることも分かった。

○獅子舞活動の主体が青年団から保存会へ変わることへの感想等

獅子舞活動の主体が青年団から保存会へ変わることに、どのように思うか尋ねたところ、一番多かった回答が「期待もあるが不安もある」が 41%で、次いで「特に何も変わらないと思う」が 29%、「期待している」が 18%、「不安がある」が 12%であった。

図 3 獅子舞活動の主体が青年団から保存会へ変わることへの感想



アンケート調査結果より

続いて、その理由や獅子舞活動や自治会活動についての意見を伺った。

【「期待している」と回答した者の意見】

- ・今後継続してほしいから。・獅子舞に関わる人が増えることに期待しているから。

【「不安がある」と回答した者の意見】

- ・保存会になっても、担い手が確保されない。・（年長者に対し）萎縮するから。

【「期待もあるが不安もある」と回答した者の意見】

- ・参加人数が多くなり活気が出る期待感はあるが、やめることを先延ばしにしているだけではないか。
- ・青年団ではもう続かないということなので、延命はできたと思うが、若い世代の参加が増えないので、結局は段々と獅子舞が難しくなっていくのではないか。
- ・保存会になっても。いままでとにも変わらないのではないか。
- ・人数が増えるように見えるが、現状を維持してきたメンバーが参加しづらい環境になるかもしれない。
- ・どんどん高齢化して若者の活躍の場がなくなる。
- ・新たな団体ができると今後の役回りが増える。
- ・獅子舞の知識及び技術等、地域住民と繋がりを深め次世代へ継承するという点についてはいいと思うが、保存会になったとしても、次の若い世代の人が入ってこなければ継承といった基盤そのものが揺らぐ事になる。保存会への勧誘や地域住民の祭礼行事への理解、協力が必要不可欠になってくる。保存会の人達が祭礼行事をやればいいという他人任せ的な考えではなく、地域住民が一体となって獅子舞活動の技術及び伝統の継承を行っていくべきであると思う。
- ・若年時にはめんどくさい。ただ、年齢を重ねるごとに町内の繋がりは必要となってくるもので、その繋がり作りの場として良いものではないかと思う。
- ・中長期的な団体の運営における見直し ※少子高齢化での地域活動維持における人足、費用面等の運営負担軽減
- ・下の世代になるほど人数も減って、そのぶん一人当たりの負担が大きくなっていくので、なんにしても縮小していくのではないかと思う。
- ・人が減る一方なので、現状をいつまで維持できるかが問題。

【「特に何も変わらないと思う」と回答した者の意見】

- ・管理者が変わるだけで根本的なところは特に変わらないと思う。一時的な延命措置にしかならない。
- ・参加メンバーは何年経っても変わらず、体力気力がなくなれば、人数減少へとなり、結局、存続不能となる。 ・メンバーがすでに固定化しているため
- ・現青年団員に任されると思うから ・年齢的にキツイというような会話が合ったから
- ・やらなければいけない事も多数あるとは理解しているが、正直理解できない事も多くそれにプライベートな時間を削られるのは苦痛。他の町内でも同様だと思う。
- ・個人的には心の原風景ではあるが、存続に関しては大変厳しい状況であることは認識している。できることなら末永く続けることができることを願っている。

獅子舞活動の主体が青年団から保存会へ変わることには期待している意見としては、獅子舞の継続、そして、それに関わる人の増加を期待していた。

一方、「不安がある」、「期待もあるが不安もある」、「特に何も変わらないと思う」の意見としては、「新たな担い手となる若手が増えないため、獅子舞に関わるメンバーがかわらない」、「年長者と一緒に活動することで今まで活動していた者が萎縮してしまう恐れがある」、そして「新たに役割を増やされることへの懸念」が主なものであった。

5. 課題の解決策を考える

アンケート結果より、新規の担い手が確保できず、いつまでも活動主体が変わらないことが大きな課題となっていることが分かった。そこで、2つのアプローチを考えたい。

(1) 獅子舞活動に関わり続けられる環境をどう作るか

解決策の1つとしては、獅子舞活動への切れ目のない関わりづくりである。

名畑地区においては、小学生の時にくっきりとして獅子舞活動を開始するが、小学校の卒業と同時に獅子舞活動から離れてしまう。そして、就職等をきっかけに再び獅子舞活動に携わるのが通例であったが、現在は獅子舞活動から一旦離れると、地元に残っていたり、帰ってきてても関わりを持たない者も多い。

その理由は、地域との関わりが長期間に渡って途切れてしまうことで、他人事になってしまうからではないか。小学校を卒業し獅子舞活動から離れ、就職までには、少なくとも7～10年のブランクが生まれる。その期間に、若者は地域活動に入りにくくなり、また、上の世代も若者を誘いづらくなって、若者と地域の関わりが疎遠になっていると推測する。

そうだとすれば、小学校を卒業し、中学生、高校生になっても獅子舞活動に携わってもらえるようにして、できる限り活動から離れる期間を短くできないだろうか。そのために、中学生や高校生にも、次のような役割をお願いできないかと考える。

まず、名畑には現在中学校3年生の男の子が1人いるが、その子には来年の春祭りで獅子の胴体部分の1人としての参加をお願いする。胴体部分での参加が可能であれば、胴体部分の動きとともに頭の動きについても学んでもらう。

また、現在中学校2年生の男の子と女の子が1人ずついるが、その子たちには受験勉強に支障がない範囲で、比較的覚えやすいお囃子の太鼓をお願いする。

現在、名畑で獅子舞活動に参加している小学生は5年生が1人、4年生が1人、2年生が1人、1年生が2人だが、彼らにも小学校卒業後は、地域のお兄さんお姉さんとしてくっきりとした指導役をお願いしていく。その後はお囃子として笛や太鼓、男の子であれば獅子役として協力してもらい、獅子舞活動に継続して関わってもらおう。

このように子供から大人になる間にも役割を作り、継続して獅子舞活動に関わってもらい流れを構築し、獅子舞活動を自分のこととして考える意識付けをしていく。

このようにして一緒に活動したことがある仲間が残っていれば、進学等で地元を離れ、Uターンでまた地元に戻って来た若者たちも活動を再開しやすくなると思う。

(2) 獅子舞活動を学校教育とどう連携させるか

もう 1 つの解決策としては、獅子舞活動と学校教育との連携である。これには子供のうちから獅子舞活動に触れる機会を多く与えることで、獅子舞への関わりをより深める狙いがある。

先にも述べたが、市内においても町部の獅子舞は「小矢部市獅子舞大共演会」があり、地域外の人へも獅子舞を披露する機会がある。しかし、村部においては地域外の人へ向けて披露する機会は限定的である。したがって、学校教育に獅子舞を取り入れてもらい、学校の友達にも獅子舞を披露する機会を増やすことで、子供にとっても自分の地域の獅子舞に誇りを持ってもらえるのではないかと考える。

また、獅子舞がない地域もあり、地域外の子供達の中から、獅子舞に興味を持って参加してくれる動きも期待できるのではないかと考える。さらには、その保護者にも協力してもらうなど地域を超えた交流にも繋げたい。

このように学校教育との連携は、子供たちの文化意識の向上だけでなく、地域間交流により新たな人材の確保も期待ができる。

なお、学校教育における獅子舞の導入は、地域の伝統文化継承や E S D（持続可能な開発のための教育）の一環として、実際に全国の小中学校で実施されている。

学校教育に獅子舞を取り入れている例として、香川県高松市立十河小学校での活動がある。この小学校では総合的な学習の時間において 3 年生のグループが地元で活動している十河校区に受け継がれている獅子舞について、獅子舞活動の団体から学び、練習を重ね、10 月の鯉宇神社秋季例大祭の際には、地元グループと同様に獅子舞を披露している。この活動に取り組んだ子どもたちから、小学校卒業後、地元の獅子グループに入る動きもあり、文化の継承に大きな役割を果たしている。この活動は「獅子舞の継承」として、教育文化事業の助成を受けている（公益財団法人香川県教育弘済会ホームページより）。

私の地域において学校教育への取り入れを実現するには、まず近隣自治会の獅子舞活動団体に相談した上で、そこから協力して学校側に対して、学校での獅子舞披露、次に獅子舞体験と、段階的に提案していきたい。実施日も、自治会での獅子舞奉納に近い日に設定し、練習や道具づくりなどの準備の負担は減らしたい。

6. 自治会活動における獅子舞活動の可能性

先述のとおり、名畑自治会の獅子舞活動は今年から青年団から保存会に活動の主体が変

わり、子供から高齢者まで自治会住民全員が関係者となる。

名畑自治会では、現在、子供から高齢者までが集う活動はほとんどないことから、この保存会が獅子舞活動の場として、さらに自治会内で唯一の世代を超えた交流ができる可能性がある。そうなれば、自治会内での行事についての議論も、これまでは役員世代だけだったが、幅広い世代が一緒になって見直しができると考える。その一例が、表 1 の名畑自治会の年間行事一覧にある「除夜の鐘撞」であり、これまでは青年団で行い、一部の世代にとって負担となっていた。

それだけではなく、行事を組み合わせる発想で、年間の行事の数を減らす、といった負担の削減もあるかもしれない。それを見つけるためにも、世代を超えた話し合いの場を定期的に設ける必要があると考える。話し合いの機会としては、獅子舞の反省会と合わせて実施することで少なくとも年 2 回設けることができる。また、ただ集まるだけでは意見が出しにくく、話し合いが進まないのであれば、事前にアンケートを取り入れることで協議すべき内容を明確にできるであろう。

先のアンケートであったように、年長者との活動で若者が萎縮するといった懸念事項もあるだろう。しかし、これまでは年長者と若者の話し合いの場すらほとんどなかったの、まずは場をうまく活用することで、住民全員で自治会を作っていけるものとする。

7. おわりに

少子高齢化の現代において、これまでのように地域の活動を継続していくことは、獅子舞活動に限らず簡単なことではないと思う。時には活動を中止したり、終了するといった判断も必要となるかもしれない。しかし、かつてのような活力を失いつつある現代だからこそ、地域において獅子舞活動のような世代を超えて交流できる場を大切にしていけるべきであるとする。そして、獅子舞文化を次の世代に継承できるよう地域全体で知恵や工夫を出し合い守っていくことが、自分たちの地域を守ることに繋がっていくと考える。

先人たちから受け継がれてきた歴史や知恵を大切にしつつ、今回の保存会への転換のように時には形を変えるしなやかさを持って、これからも伝統の継承と自治会の活性化について模索し取り組んでいきたいと思う。

【参考資料】

- ・富山県観光公式サイトホームページ
- ・小矢部市獅子舞連合会ホームページ
- ・「名畑自治会における獅子舞活動について」のアンケート調査
- ・公益財団法人香川県教育弘済会ホームページ